

平成十九年度

# 大洲市地域福祉(ボランティア)研修会

## 愛媛県 人生いきいきボランティア講座

平成二十年二月十七日(日)

大洲市総合福祉センター

二月十七日、大洲市総合福祉センターにおいて、「支えあう喜び。誰もが安心して住みよい地域づくり」をテーマに大洲市地域福祉(ボランティア)研修会を開催しました。今年度は、団塊世代の方々を新たに加え、愛媛県事業人生いきいきボランティア講座との合同開催という運びとなりました。

市内を中心に約二二〇名の方々に参加いただき、まず、ボランティア概論として、愛媛県県民環境部管理局県民活動推進課NPO・ボランティア係主任佐々木 一光氏から、愛媛県が取り組んでいるボランティア活動推進の取り組みについて紹介がなされました。

愛媛県では、『愛と心のネットワークづくり』を合い言葉に、県民同志の助け合い・支え合いの活動の輪を広げる活動の推進を行っており、平成十六年度から、県民のみならず、気軽にボランティアの相談ができる

ように各市町にボランティア窓口を設置しています。相談窓口への相談件数については、年々増加しており、平成十七年度には、月平均二百六十六件の問い合わせがあったものが、平成十九年度(四月九日)の月平均では、約二・五倍の六百七十八件の問い合わせとなっております。



また、幅広くボランティア情報の発信をするために、『愛媛ボランティアネットワーク』というインターネット上のホームページを通じてボランティアの募集情報紹介・活動紹介・イベント情報の発信などを行っています。ボランティアをしたい・して欲しい個人・団体・施設などが登録され閲覧が可

能となっております。平成十九年十二月現在で、約二千二百件登録されており、さらに、平成十九年八月から、特技や趣味を活かしてボランティアをしたい人や団体を登録し、ボランティアをしてもらいたい人や団体に紹介する『芸ボランティア』という制度を始め、現在は、約四十件登録されています。



その他にも、夏休みと冬休みの期間を活用し、ボランティアを積極的に推進する『サマーボランティア・キャンペーン』、『ウインターボランティア・キャンペーン』活動の推進に取り組んでいます。

このキャンペーン参加者も年々増加傾向にあり、平成十七年度延べ参加者が、約一万七千人(夏のみ)であったものが、平成十九年度延べ参加者は、約四万二千人に増加して、愛媛県民のボランティア意識が向上しているのではないかと、この説



前田 眞 先生

明がありました。また、特定非営利活動法人まちづくり支援えひめ代表理事前田 眞先生から、「ボランティアでまちづくり」との演題でご講演いただきました。

戦後の日本は、高度成長期を経て成熟した社会を構築していたが、その過程で社会の仕組みも変わり、以前は、地域社会で暮らすためのルール『慣習』があり、生産活動や社会活動に対して共同生活を行う上で重要となる自助・互助・共助・公助などの知恵があったが、現在の都市型社会においては、他人とのかかわりを避けて暮らすことが多くなっています。ハンディキャップを持たれている人たちの社会参加が顕著になってきているなどの共同生活の仕組みの変化が見られ、また、各自自治体財政難に陥り社会生活を維持するた

めのシステムが大きく変わり、公的サービスを維持していくことが困難な状況になりつつあり、個人の思考も多様化して、一律的な行政サービスでの対応が難しい状況になってきています。

従って、これからの社会を支えるためには、市民参加によるまちづくり、市民や住民と行政が協働してまちづくりを行う必要があるということになります。

そこで注目を集めている存在が、団塊の世代というようになります。

団塊の世代とは、昭和二十二年（二十四年）に生まれた方で、全国で約八百万人いると言われています。大洲市では、約四千三百名の方がいらっしゃると思います。これは大洲人口の約八・四パーセントを占めていることとなります。

特徴としては、人口規模が大きく、強い競争心を持つ一方、平等に対して強い意識を持っている。また、

長男が家を継ぎ、親の世話をし、先祖の墓を守るといった意識を持っている方が多い。しかし、その反面、自



分の子供たちに対しては、家を継ぐことを求めない。など世代の特徴について説明をしていただきました。

そして、今後、三年間の間に多くの団塊の世代の方が退職することにより、労働人口の不足、経験豊かなベテラン職員の不足、知恵や技能の継承が難しくなるなど社会問題化しています。

団塊の世代の課題としては、平均寿命が、八十歳を超えてきている時代に定年退職後の人生をどのように過ごすかということがあげられます。この課題を解決するために地域の中で活動を行うことができるよう地域の拠点を必要があるということになります。

団塊の世代の方が、今後、地域にデビューするためのコツとして、

① 「できること」より「したいこと」を探そう。

② 地域には、部長も課長もない。地域は、横のつながり。対等・平等の友達をつくらう。

③ 講座やセミナーなどに参加し同志に出会うチャンスを作ろう。

④ 肩の力を抜き、多様性を認めながら活動しよう。

⑤ 常識は一つじゃない。効率、スピード優先の企業理論では、地域は動かない。

以上のような五つのポイントを挙げ説明していただきました。

そして、お互いに支えあう地域づくりを実現するためには、

① 地域にどのようなものがあり、だれがどこに住んでいて何を求めているのかなどを確認し、物理的・人的拠点をつくる必要がある。

② さまざまな情報を気軽に総合的に相談できる機関が必要。

③ どこにどんなものがあり、誰がどこに住んでいて、いざという時に誰が支援をするのかを情報発信する必要がある。

④ 地域課題を解決するためには、世代や分野を超えて交流することが重要。

⑤ 既存の地域組織（地区社協・老人クラブなど）や子育てグループなど自然発生的なグループとの連携が必要。

⑥ 公的サービスとインフォーマル（非公式）サービスとの仲介を行う人材が必要。

⑦ 地域住民が、どのような生活をしたのかというイメージを共有して活動することが必要。

という七つのポイントを説明していただきました。

団塊の世代の方々がいかに地域社会で活躍していただくか、また、ボランティアと行政との協働によるまちづくりを進めるために重要となるポイントなどについて非常に熱心に分かりやすくお話いただきました。

参加していただいた方々からも非常に参考になる貴重なお話を聞くことができたという意見が聞かれ、今後、大洲市の地域福祉活動がますます推進していくのではないかと感じる研修会となりました。

